

**平成29年度第3回 北杜市老人福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
及び北杜市地域包括支援センター運営協議会 会議録**

開催日時 : 平成29年12月1日(金) 10:00~11:20
出席者 : 委員12名
欠席者 : 委員4名
傍聴者 : 無し

1. 開会のことば

事務局: ただいまより、平成29年度第3回北杜市老人福祉計画・介護保険事業計画策定委員会及び北杜市地域包括支援センター運営協議会を開催いたします。本日は4名が欠席となっておりますが、北杜市老人福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会設置要項第6条の2の規定に基づく出席者数が12名と過半数を超えていますので、本会議は成立いたします。

2. 会長あいさつ

会 長: 私が会議に参加するようになって3回目になりますが、だんだんとどのようなことが実施されているのか分かってきたように思います。前回、第2回の会議で、介護保険料について宿題になっていたように思いますが、そのあたりについて、市の説明をよく聞いていただき、慎重なご審議をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

3. 議事録署名人選出について

事務局: 北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱第9条3により、議事録署名人2名を選出したと思います。議事録署名人は、日野水委員と藤波委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

一 同: 異議なし。

事務局: それでは、2名の方をお願いいたします。

4. 議事

(1) 将来推計第1回目報告からの変更点

①地域包括ケア「見える化」システムによる自然体推計(第2回目)

・将来推計第1回目報告からの変更点(地域包括ケア「見える化」システムによる自然体推計(第2回目))について、事務局より説明。

<質疑応答>

委 員: 資料26ページに300円増と保険料が提示されているが、これの取り扱いはまだ暫定なので、部外秘になるか。

事務局: 保険料が上昇する要件として介護報酬の改定などもあるので、それで上昇した分については基金で調整しながら、当方では4,300円で据え置く努力をしたいと考えている。

委員：資料21ページのモデル事業については、どのような形で市民に周知を図っていくのか教えてもらいたい。

事務局：3月議会提出の予算案の承認も並行して行われるようになるため、その可決成立がおそらく3月中下旬となる。そこで可決成立した後、広報紙、市ホームページと合わせ、チラシを作成して事業所に担当が出向いて説明するので、広く声かけをしていただきたいと考えている。また他に情報提供できる手段があれば、広く広報に努めてきたいと考えているので、教えていただければ。

(2) 第5次ほくとゆうゆうふれあい計画 素案

・第5次ほくとゆうゆうふれあい計画 素案について、事務局より説明。

<質疑応答>

委員：資料49ページの⑦シルバーハウジング生活援助員派遣事業と、次ページの⑧生活支援ハウス運営事業の区別について、費用対効果も含めて、今後も両方とも続けていくべきかどうかについて説明をお願いしたい。

事務局：49ページの⑦シルバーハウジング生活援助員派遣事業は、高根町のしらかば保育園のある敷地にある施設になる。建設の際に福祉施設として建設する中で入居できる方の条件がある。単身世帯5世帯、同居世帯5世帯の合計10世帯が入居可能となっており、現在は8世帯が利用している。介護が必要に至る前の段階で入居が可能になっている施設なので、福祉課としてもできれば一般の高齢者向け住宅への検討を進めていきたいと考えている。また、50ページの⑧生活支援ハウス運営事業は9部屋設置している施設になる。入居要件があり、身寄りのない方や親族の援助が受けられない方になっている。愛寿会に委託をしており、入居者数によって委託料は変わってくるが、現在は9部屋のうち6部屋の利用がある。所得に応じて利用料の徴収をしているが、所得のない方が利用しているため、現在は6部屋のうちで1名から負担金をいただいている状況である。愛寿会と協議をしながら、譲渡を含めて色々な方向から検討していきたいと考えている。

委員：現在は補助事業となっているのか。

事務局：生活支援ハウスについては委託をしている。シルバーハウジングは市営住宅としての位置付けとなっているので、そちらに入居している方の安否確認や相談を受けてくれる派遣員については委託をしている。

委員：84ページの介護給付適正化に向けた取組の推進について、施策の方向性の中の「要介護認定の適正化」で「要介護認定の適正な調査を確保します」と書いている。自立を促して健康に過ごしていただくという中で介護認定になると思うので、必要以上に重くする必要はないと思うが、客観的に見て明らかに介護が必要な方に対して介護度がつかないことのないように、色々な意味での適正化を進めてもらいたいと思う。

事務局：適正化については、認定調査が入り口になるかと思うが、認定調査員に対しては皆が同じように見られるように研修等を重ねており、今後も続けていきたいと考えている。

委員：35ページの地域包括ケアシステムの推進で、住み慣れた地域で最期まで暮らしていく

という話だが、介護支援専門員の数は減少している。そういう現状の中で、官民が一体となって介護支援専門員の確保を進めていければと思うので、協力をお願いしたい。また、地域で暮らすためには、夜間の医療体制の整備等に心配がある。そこがクリアできないから施設等をお願いするという状況も多々あるので、そういうところも含めて計画を策定してもらいたい。

事務局：介護支援専門員が1人で抱え込むことがないような仕組みづくりを、研修会等を重ねながら行っていきたいと思っている。また、実は医療現場についても非常に厳しい状況で、市内の開業医の先生は高齢化されており、訪問診療をしたくてもご自身の体力的に厳しいという声を聞くことも多くなっている。昔から看ている馴染みの患者さんで1～2件であればできるというお医者さんもいらっしゃるが、開業医となると1年365日、1日24時間という形になるので、そのあたりを仕組みとして上手く補っていく方法はないか、今期計画期間の中で探していきたいと思う。

(3) パブリックコメント

・パブリックコメントについて、事務局より説明。

<質疑応答>

特になし。

(4) スケジュール

・スケジュールについて、事務局より説明。

<質疑応答>

特になし。

(5) その他

・素案に関する追加質問や指摘は、12月中を目途に事務局に連絡をいただくよう依頼。

<質疑応答>

特になし。

5. 閉会のことば

事務局：今回の資料の中には、介護保険料の記載がありますが、そちらの資料等についての取扱いは十分に注意いただければと思います。

以上をもちまして、平成29年度第3回 北杜市老人福祉計画・介護保険事業計画策定委員会及び北杜市地域包括支援センター運営協議会を閉会します。ご協力ありがとうございました。